



JFVSS Newsletter

アメリカでの臨床生活1年を終えて

コロラドにも春が到来し、とても過ごしやすい気温になってきました。ただこの時期は天候が変わりやすく突然の雷雨に見舞われることもあるため、夏の安定した爽やかな気候が待ち遠しいです。

早いものでCSUの大学院で働き始めてもうすぐ1年が経とうとしています。アメリカに来る前は「大学院でやっていけるのか?」、大学院修了の目処がたってからは「英語で臨床やっていけるのか?」などと心配は尽きませんでした。臨床に参加し始めた頃は、症例数もそんなに多く診ていないのに毎日肉体的というよりは精神的に疲れきっていましたが、今はようやく他のレジデント並みの症例数をこなしながら、日本の時のように臨床を楽しむ感覚が戻ってきたのが大きな変化かなと感じています。疲れているときにJFVSS代表理事の小林先生から「焦らず、止まらず」という言葉を頂きましたが、その言葉を胸にここまで何とかやって来る事ができました。

この夏からは臨床に加え大学院の授業や研究とさらに忙しくなります。CSUのレジデントプログラムは大学院の授業を受けることも義務づけられているため、診察前の朝7時30分からみんな1時間ほど、臨床に絡んだ生理学や病理学などの授業を受け（勿論テストもある）、その後に診療に入っていきます。入院症例があると7時前には来て朝からフル活動です。研究も1つではなく2~3つのプロジェクトを同時進行させていかなければいけません。こちらのインターン、レジデントの生活を見ていると日本以上に体育会系といった印象で、何よりも体力が求められる世界です。というわけで、まだまだ先は長いので、慢心せず一歩ずつ進んでいこうと思います。

佐藤 雅彦

